

文部科学省選定「未来医療研究人材養成拠点形成事業」
『未来医療を担う治療学CHIBA人材養成』
『治療学CHIBAイノベーション人材養成プログラム』
～CHIBA INNOVATION PROGRAM FOR THERAPEUTICS～

NEWS LETTER

VOL.1
2015.12



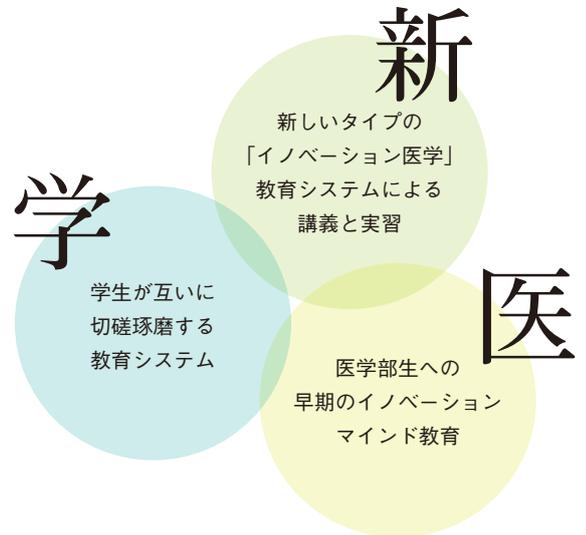
CIPT
CHIBA INNOVATION PROGRAM FOR THERAPEUTICS
AT CHIBA UNIVERSITY


CHIBA
UNIVERSITY

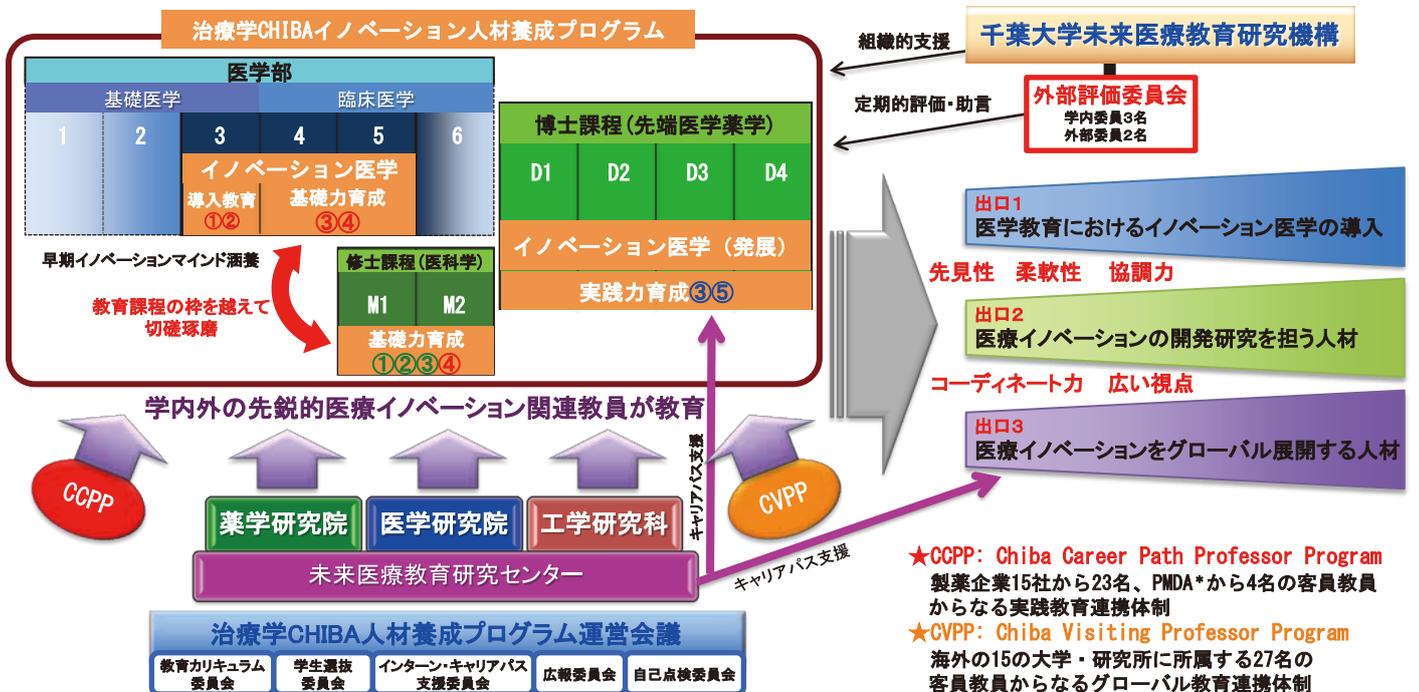
治療学CHIBAイノベーション人材養成プログラムとは？

千葉大学医学部の100年以上にわたる臨床医学推進の歴史。その伝統をもとに「治療学イノベーション」の視点で医学部から大学院までの一貫的教育システムを導入し、先見性と柔軟性、幅広い視点を有し、将来の医療イノベーションを担う人材の輩出を目的とする人材養成プログラムです。

医学部3年生全員がイノベーション医学教育を受け、4年～5年生の間にイノベーション基礎力をつけるためのゼミや実習に参加できます。医学部生と修士課程、博士課程の大学院生がともにゼミと実習に参加し、異なるバックグラウンドを持つ学生同士が切磋琢磨し合うことで知的融合の素地ができ、能力発展の基礎作りを目指します。さらに博士課程では、医学・薬学・工学部の先進的教員をはじめ、製薬企業や政府機関・海外の開発研究機関の客員教授も参画する特別演習・実習が行われます。



未来医療を担う治療学CHIBA人材養成 医療イノベーションを推進する人材の養成、医学教育システムの抜本的改革の契機となる新規教育プログラム



*医薬品医療機器総合機構

プログラムの主な内容

- ①① トランスレーショナル先端治療学
先端医療開発のフロンティア教員と学生が行うゼミ形式の講義
- ②② イノベーション医学 (講義)
メディカル工学教員とCCPP教員による医療イノベーション実践現場を伝える講義
- ③③③ 英語プレゼン・ディベート演習
外国人講師による英語での研究プレゼン力・ディベート力を育む講義・実習
- ④④ 創薬イノベーションインターンシップ
CVPP研究所やCCPP製薬企業の実験現場を体験学習する実習
- ⑤⑤ イノベーション治療学演習・実習
最先端の実験手技や臨床研究統計解析、生命倫理などを実践の現場で実施する演習・実習

PHOTO NEWS

～写真で見るCIPT～



「CIPT大学院生ガイダンス」

新たに選抜されたCIPT大学院二期生へ向けたガイダンスが平成27年4月14日(火)に開催され、大学院二期生と一期生、関係教職員が参加しました。開会の挨拶後、合格通知書の配付、自己紹介、CIPT教員紹介、コースワーク説明、大学院一期生による国内研修と海外研修の発表が行われました。さらに、今後の活動についての打合せを大学院二期生と一期生で行うなど、プログラム参加の第一歩となりました。



「イノベーション治療学実習(海外研修)」

平成27年8月18日(火)～同年8月23日(日)にアメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴにて海外研修を実施し、大学院一期生と医学部一期生が参加しました。「Tanabe Research Laboratories U.S.A., Inc.」「La Jolla Institute for Allergy and Immunology」「Kyowa HAKKO Kirin California, Inc. and BioWa, Inc.」「BioLegend」の3社と研究所を訪問し、新薬開発などのイノベーションの国際的現場を体験しました。

「イノベーション医学／

トランスレーショナル先端治療学ディベート」

イノベーション医学は平成26年12月18日(木)～平成27年2月6日(金)に全10回、トランスレーショナル先端治療学は平成26年12月15日(月)～平成27年2月2日(月)に全10回開講され、医学部3年生全員(必修)と大学院一期生が受講しました。製薬企業所属の客員教員や本学フロンティア医工学センターの教員、医学部附属病院の教員による講義後、大学院一期生がリーダーシップをとってディベートを実施しました。



「CIPT医学部生ガイダンス」

CIPT医学部一期生が選抜され、平成27年4月22日(水)にガイダンスを開催しました。CIPT医学部一期生と大学院一期生、関係教職員が参加し、開会の挨拶後、合格通知書の配付、自己紹介、CIPT教員紹介、コースワーク説明、イノベーション治療学実習(海外研修)の説明が行われました。



「英語プレゼン・ディベート」

英語プレゼン・ディベート(中級)は、平成26年10月30日(木)～同年12月1日(月)に全8回、英語プレゼン・ディベート(初級)は、平成27年8月3日(月)～同年8月12日(水)に全8回開講され、中級は大学院一期生、初級は医学部一期生が受講し、英語のネイティブの専門家から少人数制で英語によるプレゼンテーション法を学びました。講義後には学生主体の英語によるディベートが行われ、講義で学んだ内容を活かす実践の場となりました。



「イノベーション治療学実習(国内研修)」

平成27年2月23日(月)～同年2月26日(木)に「ラクオリア創業株式会社」にて国内研修が実施され、大学院一期生が参加しました。開発中の化合物を題材にして、創業ベンチャー企業における新薬の初期開発のデザインの立案を行うなど、新薬開発の現場で研修しました。

STUDENTS VOICES [学生の声]

一期生(大学院)



木内 政宏
修士課程2年

企業研修を通じて

CIPTでは、創業ベンチャー企業や海外の創薬研究拠点など、様々な企業・研究施設で研修を行いました。特に実際の開発現場では、アイデアを製品化するプロセスにおいて、それらのアイデアに優先順位を付け、いかにして製品化する上での困難を排除し、問題を解決していくかという課程を学ぶことができました。その得られた経験を生かして、今後は常に現場の視点で基礎研究やその後の臨床応用研究に取り組んでいきたいと思っています。

一期生(大学院)



和田 朋子
修士課程2年

医療の発展を目標に

CIPTのプログラムでは自分の研究分野以外の技術の知識を深めたり、他分野の方々と意見交換をする機会が設けられています。私は現在免疫学の基礎研究を行っていますが、この機会を通じて新しい技術や考え方を取り入れ活用することで、現在行っている研究に対して別の視点からのアプローチができることを期待しています。そして免疫学の分野における今後の医療の発展を担う研究に繋がってきたいと考えています。

一期生(大学院)



内垣 洋祐
修士課程2年

様々な分野のリーダーからバイオニア精神を学ぶ

今後さらに重要になっていくことが予想される「遺伝医療」。しかし、それを提供する「場」と「人」がまだまだ足りないのが現状であり、「遺伝カウンセリング」はひとりひとりがリーダーとなってバイオニア精神でそういった状況を切り拓いていく必要がある。本プログラムでは様々な分野をリードしてきたエキスパートたちから、最先端の研究内容だけではなく「どのように考えたか」「ぶち当たった壁をいかに越えたか」を学び、吸収していきたいと思う。

一期生(大学院)



栗林 和華子
修士課程2年

活動を通して得られた交流

周りに学生がいない環境で研究を行っているため、CIPTによって他の研究室の修士・博士生と交流を深める機会を得られ良い経験をさせて頂いている。本プログラムによって様々な研究室をバックグラウンドに持つ学生が、通常の講義と違う形で活動することは意義深いことだと感じており、私も友人たちから日々良い刺激を受けている。この活動を私自身の研究に活かし、さらに何か還元できるように続けていきたい。

一期生(大学院)



相下 紘貴
修士課程2年

基礎と臨床を意識した未来のイノベーターを目指して

今までは基礎研究だけを行ってきたので、あまり臨床を意識したことはありませんでした。しかし、CIPTのプログラムに参加したことで、基礎から臨床につながる研究のプロセスや、重要性を学ぶことができました。また、異なるバックグラウンドを持つ医学部の学生とディスカッションすることで、臨床を意識した視点での意見を得られ、研究を今までと異なる視野で考えるきっかけになりました。このプログラムで学んだことを生かし、自分の研究も様々な視点で独創的な研究を開拓していきたいと考えています。

一期生(大学院)



宮林 佑衣
修士課程2年

LC-MS/MSの社会実装

私はLC-MS/MS法を用いた検査方法の確立を目指し研究しています。現在の検査で使用しているimmunoassayは交差反応による測りこみが指摘されています。そこで近年、質量により目的物質を分離測定することができるLC-MS/MSが新しい検査機器として注目を浴びています。しかし、LC-MS/MSの検査への導入は、欧米に比べ日本はかなり遅れてしまっているのが現状です。そこで、私は千葉大学病院検査部へのLC-MS/MSの導入、そして検査で使用できる安定した測定法の確立を目指して努力していきたいです。

二期生(大学院)



大口 弥里
修士課程1年

成長のその先へ

医療系のバックグラウンドを持たず、英語にも強い苦手意識がある私にとって、本プログラムへの参加は不安ではありましたが、先生方や周りの学生の皆さんから新鮮な刺激が受けられ、確実な成長に繋がっていると実感しています。本プログラムを通じて得られた多くのものを基に、広い視点から医学研究に貢献できる人材に近づけるよう、一層日々の研究に取り組んでいきたいと思っています。

二期生(大学院)



小久保 幸太
修士課程1年

基礎医学から臨床を見据える

基礎分野と臨床分野を融合させイノベーションを生み出す必要性が世の中で叫ばれる中、理学部から医学系修士へと進学した自分にとって、臨床は敷居が高いと感じてしまう分野でした。しかし、CIPTでのプログラムを通して、基礎から臨床への流れを具体的にイメージできるようになった今では、臨床分野の研究者の方々とともに研究できる自分の利点を強く認識することができました。臨床を見据えながら基礎研究を押し上げる人材になるべく、これからも研究に励みます。

二期生(大学院)



宍戸 絵里香
修士課程1年

研究に必要なスキルを学ぶ

私はディベートと英語が苦手です。なので、このプログラムに参加しました。私は千葉大学国芸学部出身ですが様々なバックグラウンドを持った人たちとの交流はとても勉強になります。将来、未来医療を担う人材となれるようにこの機会を活かし努力したいと思っています。

二期生(大学院)



竹内 裕紀
修士課程1年

より良い未来医療を目指して

現在世界中に、感染症・自己免疫疾患・悪性腫瘍や生活習慣病など様々な病気が存在しています。それらの病気で苦しむ悩む人やその家族・友人がいます。それを解決するアイデアを世界中の人が望み・考えています。本プログラムは、様々な分野で医療をリードする先生方から学び、将来の医療をリードする人達と意見交換ができて良いアイデアが生まれる最高の環境です。自分自身も未来の医療がより良いものになるよう、日々精進していきたいと考えています。

一期生(学部)



青野 和人
4年生

初めての海外研修

私は医学部入学時より基礎医学研究や留学に興味があったが、なかなか行動に移せないうちに3年間が過ぎていった。そんな私にとって、今回のCIPT海外研修は自分の夢に一步踏み出す良い機会となった。免疫アレルギーの分野で最先端の研究を行っているラボの様子を見学したり、研究内容の講義を直接英語で受けたりすることは、必ずしも医学学生である今の自分に直結する成果が得られるものではないかもしれないが、これからの人生の糧となる大変良い刺激を受けた海外研修であった。

一期生(学部)



荒野 貴大
4年生

世界に通用する人材を目指して

CIPTでは英語プレゼン・ディベート演習やサンディエゴへの海外研修を通じて、英語でのプレゼンテーションスキルの向上や、海外のトランスレーショナルリサーチの現場を見学させて頂きました。これらは普段の医学部の授業では学ぶことのできないことであり、有意義な経験をする事ができました。私は医学学生なので将来の進路ははっきりと決まっていますが、本プログラムで学んだ貴重な経験を活かして、世界に通用する医療者を目指したいと思っています。

一期生(学部)



織田 弘起
4年生

考え方のグローバル化

最初は取りあえず海外に行ってみようという一心でCIPTに参加したのですが、実際に海外に行ってみると自分と海外の人の考え方の違いに驚きました。特にリスクとベネフィットを天秤にかけ、ベネフィットの方が大きければ失敗を恐れずにチャレンジするという心に感銘を受けました。この心を持って色々なことに挑戦して、たまには玉砕するだろうけど、もっと人として、そして医療従事者として、成長していけたらと思います。

一期生(学部)



志村 麻衣
4年生

Physician Scientistをめざして

CIPTでは、基礎医学研究がいかにして患者さんの治療に生かされていくのかを第一線の専門家による講義、ディスカッション、そして米国製薬会社でのインターンシップを通して知ることができました。様々な角度からトランスレーショナルリサーチの魅力、重要性を学ぶことができるのが本プログラムの特徴です。CIPTに参加して、患者さんを診る上で生じた臨床上の疑問点を研究に持ち帰り、医療の発展に貢献できるようなPhysician Scientistをめざしたいという思いを新たにしています。

一期生(学部)



芹澤 悠太
4年生

英語を学び、広い世界に触れるプログラム

CIPTのプログラムにおいては、英会話講師によるプレゼンテーションの指導や大学院生の方たちが作り上げるディベートを通して、英語力が以前より向上したように思います。この講習は自由度が高いので、自ら課題を見つけ学ばなければなりません。しかし、終わったときに得るものもより多様でした。また、La Jolla海外研修を通して、英語を学ぶことの先に広い素晴らしい世界があることを感じました。共に学ぶCIPT同期生の存在もよい刺激となっています。

千葉大学大学院医学研究院・医学部

「治療学CHIBAイノベーション人材養成プログラム」事務室

〒260-8670 千葉市中央区支鼻1-8-1

TEL: 043-226-2825 E-mail: igaku-mirai@chiba-u.jp

お問い合わせ先

